

## アタマジラミ

ある保健センターに調査関係の業務の打ち合わせに行きました。打ち合わせの最中に市民の方が「これはアタマジラミの卵ですか？」と数本の卵らしきものが付いた毛髪を持参されました。本来、市民からの害虫相談業務は、保健センターの仕事ですが、担当者にとっては、実体験の研修の機会であると思い、保健センターの担当者と共に相談を受付けることになりました。持参された毛髪を実体顕微鏡下で観察すると、幾つかの孵化（ふか）前のアタマジラミの卵が確認されました。

相談者に対して、「空の卵もありますが、中の詰まった、これから孵化する生きた卵もあるようです。恐らく、まだ成虫がいるはずです。子供さんは痒（かゆ）がっていませんか」と質問しました。「子供は痒がっています」と答えられました。

## 気孔突起

卵には、気孔突起と呼ばれるイボ状の器官があります。卵が孵化してくる時には、この気孔突起を押しつけて幼虫が出てきます。気孔突起があるうちは、まだ孵化していないということになります。今回の事例も3個の卵に気孔突起が残っていました。これが市民の方に生きた卵があるといった根拠です。ちなみにアタマジラミの気孔突起は、8個程度です。これに比べ、人の体毛に寄生するケジラミの気孔突起は17個程度と多く、立体的に盛り上がっています。卵の段階で両者は簡単に区別ができます。

## 接着剤

アタマジラミの卵は、接着剤のような物質で髪の毛に付着しています。この接着剤のような物質や卵の抜け殻は、孵化後も髪の毛に付いたまま残ります。頭を洗っても簡単には落ちません。私の経験では、市民から相談のあった事例の多くが、孵化後の卵でした。

## 説明内容

相談者に対し「アタマジラミが頭に寄生しているのは間違いないでしょう。アタマジラミを駆除するシャンプーや粉状の殺虫剤がありますが、当分は、普通のシャンプーによる洗い流しを試みてください。毎日とまではいいませんが、少なくとも三日に一度は、お母さんがしっかり洗ってあげてください」と説明をしました。

## 衛生環境研究所の標本

衛生環境研究所にアタマジラミの標本があります。昭和56年当時、京都市内の幾つかの保育所、幼稚園、小学校でアタマジラミが流行しました。そのときに相談のあった1匹のアタマジラミの成虫の標本です。しかも、長年、乾燥標本であったものをふやかし、スライド標本としたものです。あまり良い標本ではなかったので新しいアタマジラミの成虫の標本がほしいところでした。

「子供さんの頭髮を櫛などですくとアタマジラミが落ちてくることがあります。もしよければ標本としてお譲りください。職員への研修などで使用したいと思います」とお願いしたところ、翌日、センターに「アタマジラミが取れました」との連絡が入り、保健センターの担当者からいただくことができました。



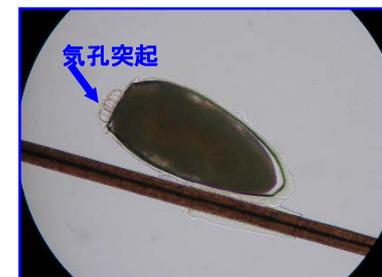
相談者からいただいた7匹の生きたアタマジラミ



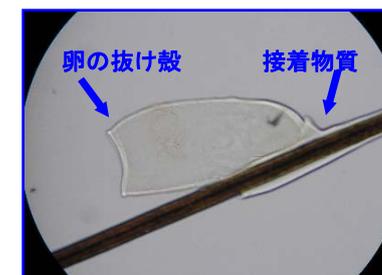
雌成虫



雄成虫



孵化前の卵



卵の抜け殻と接着物質